

超低温物性実験施設の誕生

応用物理学科(現物理工学科)の研究活動としては、学科創設以来、物性—すなわち物質の物理的な性質—の研究が広く行われていた。とくに磁性、結晶、超伝導、超音波物性などの研究に多くの教員、卒業研究の学生、大学院生が取り組んだ。こういった研究では、液化ガスを使って得られる低温での実験が重要である。そのため教授八木寿郎が中心になって、1964(昭和39)年に当時の基幹研究費により液体空気製造装置を購入した。

福井大学五十年史
第3章 第8節より抜粋

- 一九七三 空気液化機購入
- 一九七三 ヘリウムガス回収配管系統整備
- 一九七二 応用物理学科以外の学科の液体ヘリウム使用開始
- 十二月 完成
- 一九七一 工学部付属超低温物性実験施設の設置予算が下りる
- 一九六九 ヘリウム回収精製器設置
- 貯蔵タンク設置
- 一九六八 ヘリウム液化装置が設置
- 一九六四 八木先生が中心となって液体空気製造装置を購入



ADL社のコリンズ型液化機
東北大学設置された日本初のヘリウム液化機
東北大 金研より

外部より液体窒素の購入開始
二〇〇四 ヘリウム液化機更新

二〇〇一 中川先生↓千葉先生にセンター長引継ぎ
一万リットルの液体窒素の貯蔵タンク設置

二〇〇〇 超低温物性実験施設保安教育開始
窒素液化装置、ヘリウム液化装置が重大な故障
一九九九 目片先生↓中川先生にセンター長引継ぎ

一九九三 維持費が配分されなくなる
超伝導技術を用いた高分解能NMR装置を設置
一九九一 窒素液化機(KOCHIMP JL25(2))を更新

松本先生↓目片先生にセンター長引継ぎ

一九八三 八木先生↓松本先生にセンター長引継ぎ
一九八一 中峠先生↓八木先生にセンター長引継ぎ
一九八〇 回収精製用圧縮機更新
一九七八 低研のヘリウム液化器(CIT-1400)を設置
一九七七 八木先生↓中峠先生にセンター長引継ぎ

